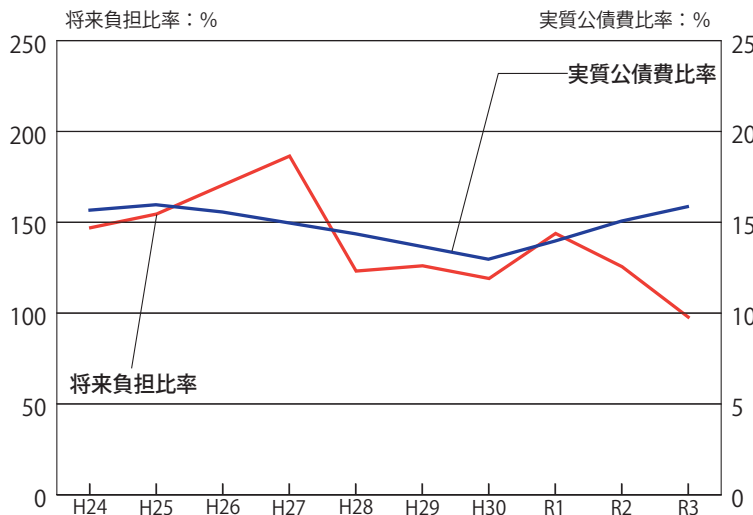


財政の健全度をお知らせします

令和3年度決算の算定の結果、全指標で「健全」の基準内となりました。

※健全度は財政健全化法で、下記の5指標の算定により、「健全」「早期健全化」（自主的な改善努力での健全化が必要）、「財政再生」（国などの関与による健全化が必要）で評価されます。

指標		算定結果 ()内は前年度数値		早期健全化基準	比率の説明
健全化判断比率	実質赤字比率	— (—)	一般会計が黒字のため、指標化なし。	14.02%	一般会計の赤字額の程度を町の財政規模と比較して指標化し、財政運営の健康度を示すもの。
	連結実質赤字比率	— (—)	一般会計、特別会計、公営企業会計が黒字のため、指標化なし。	19.02%	一般会計、特別会計、公営企業会計の赤字額と黒字額を合算し、町全体の赤字の程度を指標化して財政運営の健康度を示すもの。
	実質公債費比率	15.8% (15.0%)	債務負担行為額の増などにより、前年度から0.8%増加。	25%	一般会計の借入金の返済額と公営企業会計や一部事務組合の借入金の返済額のうち、一般会計からの支出と認められる額の合計を町の財政規模と比較して指標化し、資金繰りの安全度を示すもの。
	将来負担比率	97.7% (125.6%)	地方債現在高の減などにより、前年度から27.9%減少。	350%	将来、負担すべき額から、町の貯金などを差し引いた額を、町の財政規模と比較して指標化し、今後の財政を圧迫する可能性を示すもの。
資金不足比率		— (—)	町の公営企業は黒字のため、指標化なし。	20%	公営企業（水道、下水道）の資金不足を指標化し、経営の健康度を示すもの。



各指標の推移

実質公債費比率は、駅周辺区画整理事業や医大周辺道路整備などの大規模事業に伴い借り入れた町債（借金）の返済により上昇が見込まれるため、経費の縮減や事業の効率化に努めます。

将来負担比率は、町債借入残高の減等により減少しましたが、計画的な事業実施と適正規模の基金（貯金）残高を確保することに留意し、将来世代の負担を考慮した健全な財政運営に努めます。

町債・公営企業債の現在高

町債は一般会計と区画整理事業のための借金で、公営企業債は上下水道事業のための借金です。一般会計で道路整備や庁舎非常用発電機の更新など、上下水道事業で下赤林地区の公共接続などのため新たな借金をしましたが、償還額を超える新規借入をしていないため前年度比で減少しています。

区分	令和2年度末	令和3年度末	増減額
町債(区画整理含む)	128億2,058万円	122億427万円	-6億1,631万円
公営企業債	84億7,771万円	80億8,561万円	-3億9,210万円
水道	22億148万円	20億7,201万円	-1億2,947万円
公共下水道	41億3,273万円	40億3,010万円	-1億263万円
農業集落排水	21億4,350万円	19億8,350万円	-1億6,000万円
合計	212億9,829万円	202億8,988万円	-10億841万円

(千円を四捨五入)

▶お問い合わせ 令和3年度決算について詳しくは、役場企画財政課財政係（☎611-2726）へ。